

言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (呉市立内海小学校)

- ① 教科等 国語科 ② 学年 第5学年
- ③ 単元名 ブックガイドをつくろう～「注文の多い料理店」～
- ④ 本時の目標 戸に書かれた言葉を、二人の紳士の受け止めと山猫の思いの両方から考え、そのずれをとらえて物語のおもしろさを読み取る。
- ⑤ 学習の流れ (7時間目/全11時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 本時の学習課題をつかむ。	・一枚目の戸の場面を振り返り、ブックガイドの書き方を確認する。	
二枚目と三枚目の戸に書かれた言葉から、物語のおもしろさを読み取ろう。		
2 音読する。	・戸に書かれている言葉は、特にゆっくりはっきり読ませる。	
3 二枚目・三枚目の戸に書かれた言葉について考える。 ・二人の紳士の立場で ・山猫の立場で ・わたしの立場で	・誰から誰への注文なのかを、考えさせる。 ・自分の考えをブックガイドに書かせる前に、みんなで考えを出し合わせ、書きやすい場づくりをする。 ・みんなで考えた意見をもとに、ブックガイドに三つの立場で、自分の考えを書かせる。 ・ブックガイドに書いた考えをもとに、みんなで意見を交流させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の紳士は、お客さんからお店への注文だと思っている。 ・山猫は、おいしく食べるために二人の紳士にいろいろな注文をしようとしている。 ・二人の紳士は、よくこんなに自分たちの都合のいいように考えられるなあと思った。
4 本時のまとめをする。	・二人の紳士と山猫の思いのずれのおもしろさについてまとめる。	・二枚目の戸では、「紳士からの注文」と「山猫からの注文」；三枚目の戸では、「身だしなみや作法」と「調理のため」の、二通りのとらえ方を読み取っている。〔読む能力〕(ブックガイド)
5 次時の確認をする。	・四枚目、五枚目の戸の場面を読んでブックガイドにまとめることを確認する。	

「言語活動の充実」

設定した言語活動を通して育てたい力

- ブックガイドを作りながら、全体から部分に目をうつしたり、逆に部分から全体に目をうつしたりすることで、物語の構成や文章表現の工夫をとらえ、物語全体を読むことができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 単元の導入で読みの視点を示したブックガイドを渡し、見通しをもって学習ができるようにする。
- 完成したブックガイドはお互いが読み合い交流した後、保護者にも読んでもらうという単元のゴールを示し、目的や相手意識をもたせながら、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- 場面展開に沿って、叙述から読み取ったことや考えをブックガイドに書き込んでいくことで、意見の交流や場面を比べながら読むことができるようにする。